

令和七年度採用

山梨県公立学校教員選考検査

中学校（国語）

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

注 意

- 一 この問題は三問六ページで、時間は六十分です。
- 二 解答用紙は、別紙で配布します。「始め」の合図で始めてください。
- 三 解答は、それぞれの問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 四 「やめ」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 五 解答用紙を持ち出してはいけません。

中 学 校 国 語

一

次の文章を読んで、一～六の問いに答えよ。（*は注を表す。）

※著作権法により掲載を省略します。

※著作権法により掲載を省略します。

山本 貴光「文学のエコロジー」より（作問の関係上、一部を省略した。）

一 「^a措く」、「^d多寡」の読み方をひらがなで記せ。

二 「^bトラえよう」、「^cケンピキョウ」を漢字に直して記せ。（楷書で正確に書くこと）

三 「^①文学作品にはなにか書かれているのだろうか。」の一文を文節に区切ったものとして、最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で記せ。なお、「／」は文節の区切りを示している。

ア、文芸作品には／なにか／書かれている／のだろうか。

イ、文芸作品には／なにか／書かれて／いるのだろうか。

ウ、文芸作品には／なにか／書かれて／いる／のだろうか。

エ、文芸作品には／なにか／書かれて／いるの／だろうか。

四 「^②「一線を画す見方」とあるが、筆者は、漱石の文学の見方はどのような点で一線を画すと述べているか、「文学の見方」、「文学の定義」という言葉を使って五十字以上五十五字以内で記せ。

五 文中の（A）、（B）、（C）には、次のア、イのどちらの言葉があてはまるか、それぞれ一つ選び、記号で記せ。

ア、F（認識） イ、f（情緒）

六「^③文芸作品は、文字で書かれたものであると同時に、書かれずにおかれた省略によって成り立っている」とあるが、どのようなことか。「世界」という言葉を使って五十五字以上六十字以内で説明せよ。

二

次の文章を読んで、一～六の問いに答えよ。

※著作権法により掲載を省略します。

※著作権法により掲載を省略します。

山崎 正和「ピプリオバトル」〔『哲学漫想』所収〕より（作問の関係上、一部を省略した。）

一 「^①要領」の意味を記せ。

二 「^②そういう本能はなぜ人間に備わっていたのだろうか」とあるが、筆者はその理由をどのように考えているか、六十五字以上七十字以内で記せ。

三 文中の（A）にあてはまる言葉として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で記せ。

ア、明け方 イ、朝方 ウ、日中 エ、夕方

四 「^③創造とは語り継ぎの一種だともいえるはずである」とあるが、その理由を六十字以上六十五字以内で説明せよ。

五 「^④個人を殺に閉じ込めて共同体を破壊することにつながる」とあるが、このことを説明した文として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で記せ。

ア、個人が自身の検索した情報を頼りに知識を得ることで、他者から意外な知識を得ることができず、他者の必要性を感じることができないということ。

イ、人間は知りたいと考えたことを知ること賢くなるため、他者からの情報を自分が知りたいという欲求が生まれ、共同体の必要性を感じるということ。

ウ、他者からの意外な情報からではなく、個人の興味に基づいて検索した情報からのみ知識を得ることで、自分の殺を破ることができないということ。

エ、現代は共同体の時代であって、既存の共同体を破壊することで、個人の殺を破ることができ、個人の関心を多様化させることができるということ。

六 あなたが、二学年の国語（話すこと・聞くこと）の授業で、「ピプリオバトル」を言語活動に設定して、次の学習指導要領の【指導事項（A）話すこと・聞くこと 二学年】のイを「思考力、判断力、表現力等」の目標にして指導する場合、ICT 機器をどのように活用するか、その理由とともに説明せよ。

【指導事項（A）話すこと・聞くこと 二学年】

A 話すこと・聞くこと

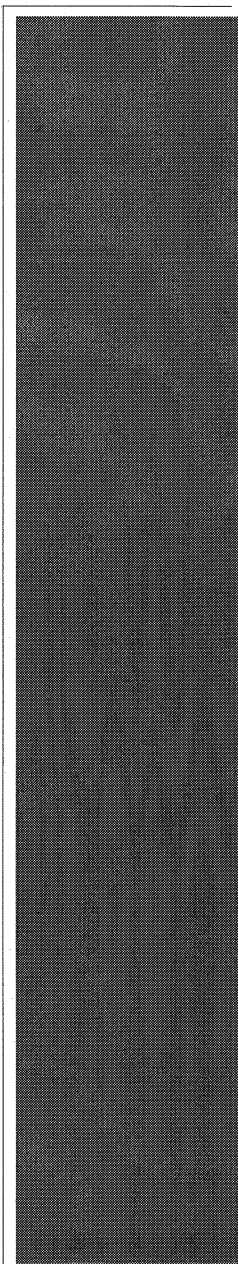
(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
- イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。
- ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫すること。
- エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。
- オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

三

次は、『源氏物語』の「幻」の一節である。この文章を読んで、一～六の問いに答えよ。（*は注を表す。）

※著作権法により掲載を省略します。



- 一 「^aやうやう」^b「結ひあはせて」を音読する場合、その読み方をすべてひらがなで答えよ。
- 二 「^Aべかり」の品詞・活用形を記せ。
- 三 「アおほし続けて」「イ御覽じつけて」「ウおし遣り給ひて」「エえ引き広げねど」の中から主語が異なるものを一つ選び、記号を記せ。
- 四 「^①御本意とげ給ふべきけしき」とあるが、このように察したのは、誰の、どのような様子からか、説明せよ。
- 五 「^②破らせ給ふ」とあるが、その理由を三十五字以上四十字以内で記せ。
- 六 「^③死出の山越えにし人を慕ふとて跡を見つともなほ惑ふかな」を現代語訳せよ。